

レースっていいよね

## - 第9回 - 「番外2!! 炸裂オヤジトーク 若いもんしっかりせい」の巻

はっきり言ってこんな事を口にしないで済むとオヤジの道まっしぐら、だけど聞いて欲しい。それは私の周りの学生さんの話である。日頃、人といろんな話をするのが好きなので学生さん達とも話す機会がたまにある。以前とあるユースホテルで仲良くなった彼がいる。彼はどうやらクルマが好きでレースにも興味があるらしい。話は盛り上がりその後何度か電話で話す機会もあった。その話の流れで「興味があるならレース手伝いに来てもいいよ」と告げる。私は一般のヒトにもレースの楽しさ厳しさを少しでも体験して欲しいと思っているから比較的誰にでも親身になって自分に出来る限りの「接客」をしている。そういう積み重ねが日本にレース文化を根付かせる一端になると考えるからだ。

それはともかく電話を切り際に彼は「これからも何かいい情報があったら真先に俺に教えてください」と言い放った。その一言にカチンと来る。おまえは何様のつもりだい。親友ならともかく、なぜ知り合って間も無い君にしかも真先に知らせなくてはならないのか？ 積極性の裏返しなのだろうがもう少し礼節をわきまえなさい。有益な情報が欲しいなら自分から動かなくてどうする。

そしてこんな事もあった。

街角で以前知り合った学生さんと偶然バッタリと出会った。「久しぶりだね」と挨拶を交わし、話は就職はどうするのかに行きつく。就職難の時代と言われている。しかしレース業界は元々余りメジャーな職種ではないし、「来るものは拒まず、去るものは追わず」という世界である。それに国家資格など必要も無い。(有るに越した事は無いが)最初は誰もが素人なのだからやる気さえあれば誰にでも出来る仕事だと話す。結局、要は本人次第なのだ。「どんな仕事でもやる気さえあれば何とかなるさ」と励ますつもりだったのだが彼は何を勘違いしたのか「ウソォ～、誰にでも出来る仕事なの？俺にも出来るかなあ?? 休みは有る? 土日は欲しいなあ、給料は?」……私は愕然とした。オイオイこいつ、なに考えてんだ。あまりレースに興味も無く、しかも技術が在る訳でもないのに自分の主義主張をまず口にするところが信じられなかった。モーターレーシング文化のある欧米は確かに社会的に仕事として認められている。しかし日本では残念ながら趣味の延長上に位置付けられている感があり、本当はこれではいけないのだが現状は受け入れなくてはならない。レース屋に限らず特殊な職業は日本では苦しい下積み時代を経験しなければならないし、逆に修行に終わりなど無いとも言われ換えられる。それに自分の興味も無いのに簡単に「あの仕事も、この仕事も」と手を出すってこと自体ポリシーが感じられない。

世の中の何人が自分の好きな仕事をしているだろう、と考えると恐らく少数派なのだろう。しかし、やりたい仕事をするのはそれなりに犠牲を払わなくてはならないし、上手くやっていくには常に自分のモチベーションを保ち、興味を持っていないとは思えないと考えている。そして最終的にはセンスの問題になってくる。これは大変厳しいことだ。努力でどうしようもないのだから。

でも最後に、慰めのつもりである学生の話を書く。彼とはイギリスで知り合った。非常に積極的で自ら進んでいろんな経験を積んでいる。名前は塩谷君という。将来はエフワン業界で働きたいというのが彼の希望だ。そのために留学ではなくイギリスの工科大学に通っている。これは大変重要な事だ。私が思うに、エフワンをやりたいならばイギリス人(ヨーロッパ人)にならなくては駄目だ。日本で日本人として育てからエフワンへ行くより遥かにスムーズに事が運ぶ。彼はその点で既に成功の切符を得ていると言ってもいい。そしてあの積極性があればまず間違い無く希望は叶うだろうと思っていた。そんな矢先(数ヶ月前)彼からメールが届く。

「BARに就職が決まりました!」

という内容だった。(BARといっても飲み屋ではない)おめでとう。しかし、実際に大変なのはこれからののだ。現在のエフワンはレース屋さんというよりは電気屋さんが活躍する舞台でもある。それに細かく分

業化されているから希望どおりの職種につけるとも限らない。腐らずにいろんな事を経験して欲しい。

とにかく、あれだけの積極性があればきっと「エフワン」という世界で成功することだろう。私の知る学生さんの中で最も骨のある彼の事だから。